

第77回しずない農業協同組合通常総会

全5議案原案通り可決される



高止まりが続いている状況にあります。

政府は、労働力不足を背景とした更なる賃上げ、税制社会保障の見直しによる家計の所得改善に取り組み消費の回復に努めております。

農業の取り巻く環境も同じ様に営農資材価格の高騰に加え人件費の高騰と生産費が上昇し生産現場では大変苦慮した一年でした。

この様な状況の中、昨年の当JAの販売は、基幹作物のミニトマトは、49戸で8億7,300万円と計画をやや上回り、夏場の気象状況により抑制作型の減収が大きく、単価面では、大きな変動も無く比較的安定的な単価で推移いたしました。今後も引きつづき作型を研究し土作りを今一度見直し、暑熱、病害虫に強い環境で増収を計っていききたいと思っております。

ホウレン草を含め、そ菜全体59戸で9億4,200万円となりました。

水稲は、作況102のやや良となり令和6年度も高品質の米を収穫する事が出来ました。昨年は、米の消費騒動があり、生産の不足感から大幅な価格上昇となり販売額は、1億800万円と計画に対して大きな伸びとなり、ブランド米「万馬券」も好評価の内、引きあいが強い状況にあります。

黒毛和牛は、販売頭数774頭で販売額4億3,200万円と令和に入って一番低価格で推移した一年でした。コロナ禍が明けても消費動向が上がついていない状況です。今後も経費削減と育成牛の質を上げて行く必要があります。

酪農は、配合飼料などの高止り、牛乳、乳製品の消費落ち込みから酪農経営自体が厳しい状況が続く中、10戸の生産者で販売額3億4,300万円と昨年とほぼ同額となりました。

当JAの農畜産物販売額合計は軽種馬を除き19億400万円、計画対比103.2%となりました。

静内産馬の軽種馬市場成績は、各市場で前年を上回る483頭で65億3,200万円、売却率82%と過去最高を更新し、依然好調が続いて

おり、当町の基幹産業としての役割を成しています。

当JAの各部の事業、及び財務状況は、ほぼ計画通りに推移しました。

専門農協としての令和6年までの経営改善5カ年計画も順調に進めており、今年度、令和6年度の収支決算は計画に対して約1,200万円増の5,529万円となり、約5,500万円の剰余金処分案を提案する事が出来ました。

又、今年度も営農状況を踏まえ、営農支援対策費として営農燃料並びに配合飼料、えん麦など、組合員149戸に対しまして昨年12月に862万円を支援させて頂きました。

当JAとしましては、農家の高齢化、又農家戸数の減少、生産費の高騰という中で地域農業と農家生活を守る為、令和7年度より新たな農業振興5カ年計画に基づき、作目別振興対策を各振興会と共に情報を共有して取り組んで参ります。

令和7年度につきましては、今、私達に問われている食糧の安全保障に携わる者として生命の維持産業にかかわっている誇りと、その環境を担うJA組織が、今後、組織運営維持が非常に難しくなっていく中、

4月4日、新ひだか町公民館において「第77回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。

冒頭では、西村会長理事より「国内経済は、コロナ発生以降、ウクライナ侵攻を始めとする世界各地での地域紛争、円安進行による石油関連や輸入食料などの高騰により物価高